

船舶事故調査報告書

平成29年9月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成29年4月29日 05時50分ごろ
発生場所	青森県外ヶ浜町三厩 ^{みんまや} 港北方沖 三厩港北防波堤灯台から真方位009° 2.0海里付近 (概位 北緯41° 13.9′ 東経140° 26.6′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ハンター} HUNTERは、漂泊状態から前進を開始したところ、転覆した。
事故調査の経過	平成29年5月1日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート HUNTER、0.4トン
船舶番号、船舶所有者等	294-24608青森、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船外機等に濡損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.2m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人1人（以下「同乗者」という。）を乗せ、パラシュート型シーアンカーを投入して釣りをしながら漂泊中、海面付近となっていた船尾両舷のスキャップ（排水口）から海水が流入した。</p> <p>本船は、船長が、船内の滞留水が船尾部で甲板上高さ約0.1mまで増加していたので、航走して滞留水を船尾スキャップから排出しようと思い、シーアンカーを揚収した後、船外機を前進に操作したところ、船尾部が沈下して右舷側に転覆した。</p> <p>船長及び同乗者は、落水した後、転覆した本船の船底に上がり、船長が携帯電話で118番通報をして救助を待っていたところ、付近を航行中の貨物船に救助された。</p> <p>本船は、本事故後、外板、甲板等に亀裂などは確認されなかったが、船底の空気室区画にビルジ（開口部等から船内へ入った水が船底にたまったもの）が確認された。</p> <p>本船は、出航前、船首側を斜め上方に向けた状態で屋外に保管され、船底の水抜き栓が閉鎖されていた。</p> <p>船長は、本事故当時、船尾スキャップからの海水の流入量がふだんよりも多いと感じており、出航前に水抜きを行ってビルジを排出していなかったため、出航前からビルジがたまっていたものと、本事故後に思った。</p>

	<p>船長は、船体中央部にある燃料タンク収納区画の空気抜き穴から雨水等が浸入し、燃料ホースが通る穴を通じて船尾の物入れ区画に流れ、船底の空気室区画にビルジがたまったものと、本事故後に思った。</p> <p>船長及び同乗者は、共にベルト式救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、防水型携帯電話をズボンのポケットに入れ、胴付き長靴を着用して腰にベルトを巻いていた。</p>
分析	<p>本船は、漂流中、船底の空気室区画にビルジがたまっていたことから、乾舷が減少して海面付近となっていた船尾スカッパから海水が流入し、船長が増加した船内の滞留水を排出しようと船外機を前進に操作したところ、滞留水が船尾部に移動して転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、燃料タンク収納区画の空気抜き穴から雨水等が浸入し、燃料ホースが通る穴を通じて船尾の物入れ区画に流れ、船底の空気室区画にビルジがたまっていた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、漂流中、船底の空気室区画にビルジがたまっていたため、乾舷が減少して海面付近となっていた船尾スカッパから海水が流入し、船長が増加した船内の滞留水を排出しようと船外機を前進に操作したところ、滞留水が船尾部に移動して転覆したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出航前の点検を確実に行うこと。 ・ ボートを陸上保管する際は、船底の水抜き栓を外しておくこと。 ・ 航行中に異変を感じた場合は、直ちに帰港すること。